

# 慈眼

第24号

発行所  
唐津市西十人町127  
法蓮寺内

TEL 0955-72-2393  
FAX 0955-74-4948

日蓮宗佐賀  
教化センター

発行責任者  
藤山英周

## 宗門運動（平成十七年度～平成三十四年度）

### 『立正安国・お題目結縁運動』とつらと

皆様のお寺に新宗門運動のポスターが  
掲示されていると思います。この立正安  
国・お題目結縁運動とは何なのか、一  
目では難解な言葉に感じる事と思います。

今、NHKテレビで放映されている『義  
経』兄の頼朝が開いた鎌倉幕府、宗祖日  
蓮大聖人が活躍された時代です。大聖人  
は立教開宗のち清澄寺から鎌倉の松葉  
谷に庵を結び布教伝道の日々を送って  
おられました。この時大地震・台風・伝染  
病とたて続けに大災害が襲い、国中の人々  
が恐怖にさらされました。大聖人は仏教  
の国である日本で何故この様な混乱が起  
きるのか、一切経（お釈迦様が説かれた  
全ての教え）を調べ原因を究明されまし  
た。

その結果、この国には釈尊の教えであ  
る法華経が取り入れられていないのが原  
因であるとの結論に達せられました。是  
を『立正安国論』にまとめられて鎌倉幕  
府に奏進されました。時に、文応元年七

月十八日（二二六〇）のことでした。来  
る平成二十一年は安国論奏進七五〇年を  
また、平成三十三年には大聖人ご生誕八  
〇〇年の慶事を迎えます。そこで現代の  
世の中に大聖人が示された立正安国の御  
心を伝えることを目標としてこの運動が  
決められました。

岩間湛正宗務総長はこの運動達成のた  
めに五つの基本目標を掲げられました。  
第一は「お題目こそ成仏の種」

私達の人生の目的は、仏様によって心  
の奥底に植えられた仏の種をお題目によ  
って育てて実らせる事です。

第二は「人を育てる、人こそが法の担  
い手」

立派な教えがあってもそれを伝える人  
と、受け取る人が居なければなりません。  
良き教師（僧侶）と檀信徒が一体となっ  
て修行に励み、未来に教えを伝えなくて  
はなりません。

第三は「心の平和、社会の平和、世界

の平和」

家庭でお題目を唱える功德により必ず  
健やかな心、幸せな家庭を築くことが出  
来ます。このことが社会の平和、世界の  
平和への基礎となるのです。

第四は「現代社会の諸問題への対応」

現代社会の物質文明は行き詰まり、終  
焉に向かっています。その結果環境汚染  
や飢餓・病気等の問題により世界の人々  
のいのちはおびやかされています。

大曼陀羅ご本尊に示されたお題目の光  
明によって、あまねく世界を照らすよう  
に様々な問題に対処しなければなりません。

第五は「世界の仏教徒と共に」

宗教が戦争やテロの原因になっている  
現状です、私達は世界の仏教徒と手を取  
り合い、他宗教の人々との対話を通して  
平和の基礎を造って行かねばなりません。

以上、五つの基本目標をお伝えしまし  
たが、結縁とは仏縁を結ぶことです、大  
聖人は「下種結縁」と示されています。

これはお釈迦様が法華経を説いて、人々  
の心に成仏に必要な種を植え付け、仏と  
なる縁を与えることです。つまり大聖人  
が弘められたお題目を唱えることを下種  
結縁と言います。朝夕の勤行等によって、  
私達の心田に植えられたお題目の種を育  
て、成仏という豊かな実りを得たいもの  
です。そしてこの豊かな実りを多くのの人々  
に伝えることによって、一粒の種が多く  
の实りとなり、大聖人の目指された立正  
安国の実現に近づくのです。

## 終戦60周年戦没者慰霊神繩団参

■実施日 平成17年11月16日(水)～18日(金) 2泊3日

■旅行代金 ¥78,000 ■申込締切日 10月21日(金)

■申込・問合せ先 日蓮宗佐賀県寺院・教会・結社

団参企画 日蓮宗佐賀県青年会 旅行企画・実施 東急観光株式会社佐賀支店

【特集】

《六老僧》

実はあまり知られていませんが、日本史上初の海外布教を実行した人物が、なんと日蓮宗門のなかにいらっしやったのです。その桁外れの布教意欲で単身、中国大陸へ布教活動を敢行した偉大な先師が、今回ご紹介する甲斐公・日持上人(一二五〇〜没年不明)です。

蓮華阿闍梨日持上人

日持上人は駿河国(静岡県)松野に松野六郎佐衛門尉の次男として生まれ、幼名を松千代といいました。七歳で天台宗の岩本実相寺(現在は日蓮宗由緒本山)に入り、のちに比叡山で修学されました。ことに文筆、歌道に長じていたといわれています。実相寺の法兄に伯耆坊(のちの日興上人)がおられ、文永七(一二二七)年その縁で日蓮門下に参じ、甲斐公また日持と名付けられました。

入門から一年後日蓮聖人と共に佐渡に流され、身延入山の際にも大聖人に侍し、主に故郷である駿河方面の布教に従事します。御遺文に頻出する松野一族を教化したのは日持上人の功績が大でした。若くして文筆にすぐれていた日持上人は「持妙法華問答鈔」を叙作し大聖人がこれを印可したと伝えられ、大聖人御遺文に収録されています。大聖人が口述して弟子に筆記させた例は他にもありますが、著

述の代作印可は日持上人ただ一人しかいらっしやいません。

こうして非凡な学才と信念の強固さを見込まれ、宗祖の臨終には末席ながら本弟子六老僧のひとりに加えられました。「御遺物分配」では「小袖一枚・手鉢・馬」を配分されています。大聖人御廟所守護の輪番は五月を担当されました。

正応元(一二八八)年、宗祖第七回忌報恩の際、臨滅の聖地・池上本門寺に大聖人等身大の座像を造立、これが宗祖の容貌をもっともよく伝えているとして広く信仰を集め、現在国宝に指定されています。

自らが開創した松野の蓮永寺で永仁二(一二九四)年、宗祖の十三回忌法要を営んだ日持上人は、身延山の宗祖の御廟所に詣で、そこで国内布教の基盤を他の本弟子に任せ、自らは「東方より興りし仏法月氏へ帰る」という宗祖の宿願であった中国・インドへの広宣流布を果たさ

んとする旨を誓願なさったのです。

翌永仁三年正月一日、日持上人四六歳のとき高弟日教を後任とし、門人たちの見守る中、単身、北方を目指し弘通に立たれます。それは同時に死出の旅でもありました。数少ない残された事跡から日持上人のたどられた足跡を推測すると、山形、秋田を経て、青森県黒石市に法嶺院を、青森市内に蓮華寺を開創、その後、蝦夷(現在の北海道)に渡り、函館に妙応寺、松前に法華寺、樞法華村に妙願寺を開かれました。ほかにも、江差や上ノ国など北海道の南部には各地に日持上人にまつわる伝承が現在に多く残されています。

樞法華村から舟で大陸にわたり、旧満洲を経て蒙古で逝去なされたという説が有力ですが、はっきりとしたことはわかりません。宗門内では長く布教進発の日が日持上人の命日とされてきました。しかし昭和四六年に中国北京の西北に位置する宣化市から日持上人の遺品が出土します。そこに記された日付によれば、元の大徳二(日本では永仁六・一二九八)年に宣化市の法華寺安国堂に入り、大徳八(一二三〇四)年まで当地にて布教を続けていたらしいということがわかっています。最終的に仏教発祥の地インドへの布教を目指されていたことは間違いないでしょう。

佐賀の老舗 信用本位

辻の堂の仏だんや

**(株)本庄仏具総本店**

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

花と葬儀 木下株式会社 平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL 草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 (0952) **30-4040**  
FAX・30-4043

南佐賀草苑本庄 佐賀市本庄町大字本庄951 (0952) **25-1255**  
FAX・25-1088



我々人類は、息を吐いて次の空気を吸わなければ、どんなに健康な人でも三分ともたずに酸欠で死んでしまいます。又、次の日の朝、必ず目が覚めるといった保障はどこにもありません。無意識のうちに我々は、寝ている間も休みなく呼吸を繰り返しています。では、私達は一日にどのくらいの空気を吸っているのでしょうか。ある大学の教授の計算では、普通の人が一日の生活で、およそドラム缶五七本半もの空気をただで吸い続けているそうです。しかし、ただであるが故に我々は、この空気の有り難さに気付いていないはず。もし空気が無くなつたとしたら、我々はこの地球上で生きていく事は出来ません。さらには、他のたくさんの「命」を頂いて我々は生かされているのです。

では、皆さんはこの生かされている自分の「命」について考えた事はあるでしょうか。「命」とは不思議なもので、我々人間はもろろん、どんなに小さな動植物にいたるまで色々な「命」があります。その「命」に大小の差は無く、色や形もありません。しかし、全ての「命」には必ず最後があります。そうです、いづれは確実に死が訪れます。しかし、仏さまは「生と死は一緒である」と教えられています。それは私達のご先祖様の「命」お釈迦様の「命」を預かっていているからです。

歳を重ねますと男性の方はだんだんと父親に似てきますし、女性も母親に似てきます。これこそ「命」を受け継いでいるということではないでしょうか。

仏さま・ご先祖様から受け継いだ大切な「命」を粗末にしてはなりません。この大事な「命」を大切にする方法は、報恩感謝の心を常に心身に保つことです。親やご先祖様を思い、それを態度であらわすこと。すなわち、仏さまの教えである法華経を誦し、日蓮大聖人がお唱えになった南無妙法蓮華経を唱え、心から感謝する気持ちを保つ、それが一番大切なのです。

お題目を唱え、悔いの無い毎日を通し、それを子孫に伝えていくことこそが私達の大事な役目では無いでしょうか。

**Q** 「七五三参り」は神社だけでなく、お寺さんでもやっているのですか？

**A** やっています。

そもそも「七五三」とは男児が数え年の三歳・五歳、女児が数え年の三歳・七歳に成長を祝う風習で十一月十五日前後の期間に行われていますが、最近では満年齢の方が多いようです。

内訳としては、男女三歳が「髪置」の祝い、男子五歳が「袴着」の祝い、女子七歳が「帯解」の祝いです。本来は公家や武家の風習で、庶民に「七五三」が広まったのは明治以降のことのようです。

最近においては、お宮参りにレンタル晴れ着で千歳飴の袋を下げて子供より着飾った大人と一緒に記念撮影みたいな単なるイベントと化しているみたいですが、本来は「この歳まで無事に育ったことを神仏に感謝し、今後も無事に成長していくことを祈念致します」ってことなのです。

文頭に「やっています」と書きましたが、「発育円満祈願」と云う感じで年中行事としてやっていらっしゃる御寺院さんも数ヶ寺あるみたいなんです。菩提寺さんでも可能かもしれませんのでご相談されて下さい。

殿机具瑠者

- ・宮 経 仏 瑠 者
- ・物 壇 仏 瑠 者
- ・金 須 佛 彫 刻 品
- ・飾 須 佛 彫 刻 品
- ・卓 復 畫 天 宗 教 給 画 其 他
- ・前 修 人 宗 教 給 画 其 他
- ・一 式 座 壇 帽 物
- ・寺 院 用 具
- ・登 高 佛 像
- ・佛 像
- ・佛 像

手を合わせるころを大切に・・・

# 山本仏具

佐賀市呉服元町 10-12 23-4308  
〒840-0824 ☎ (0952)

平成17年度・創業83年目、仏壇・仏具  
・墓石の総合プラザ

# 光 古賀仏壇店

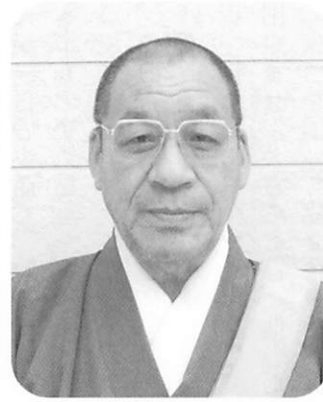
3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521  
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564

# 寺院紹介 (二二)

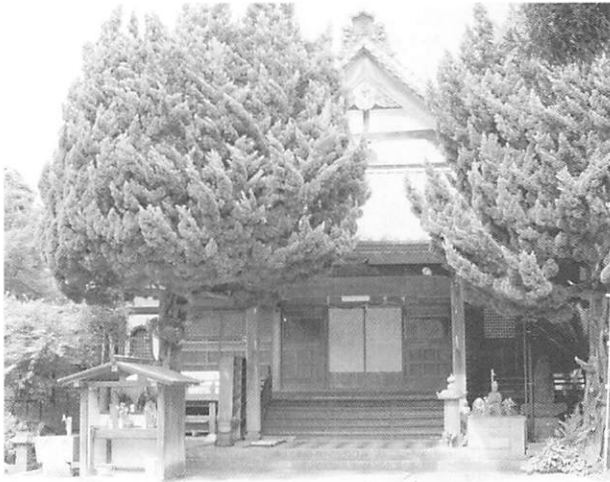
## 《安住山 昌善寺》

佐賀県唐津市八幡町六三七



第二十六世 鶴 孝澄 住職

JR西唐津駅より呼子方面行きのバスで「中ノ瀬」バス停下車、徒歩十五分の所にあります。



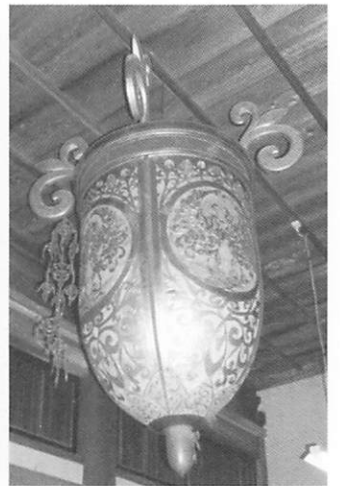
(昌善寺正面)



(鬼子母神)



(昌善寺御宝前)



(釣灯笼)

### 【由緒】

安住山昌善寺の開創は、花園天皇代永享八年八月八日、開山久遠成院日親上人を佐賀県諸富町北村為重の地にまつり、檀越久保六良助が創立し、爾来五百六十八年を経ています。当山は、もともと檀家がない大行結社教会所として出発しておりますが、昭和九年、法蓮寺・大乘寺より檀家を譲り受け、その折に、第一世から第二十三世まで為重の地にありました安住山昌善寺の寺号を第二十五世智照院日透上人と世話人の篤志により現在の地に移動しました。絶大なる檀信徒の支援外護の下に山腹を開墾し本堂・位牌堂・庫裡を新築し昭和九年十二月十八日に竣功し現在にいたります。

### 【年中行事】

毎月 八日	祈禱会
二月 十一日	大黒天大祭
五月 三日	鬼子母神大祭
八月 三日	施餓鬼会
十二月 十一日	御会式



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工  
拝む心で尊い品を

## 梅谷佛具店

TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9-0027 (地下鉄中洲川端駅下車) 7番出入口・博多座裏  
支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4-0373

フリーダイヤル 0120-39-0456

TEL 092-806-7499

総合葬祭 有限会社 小城 黄雲 葬祭会館 光

小城郡三日月町大字久米2134-1  
代表 (0952)-73-3938  
TEL (0952)-73-2020